

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【5 月度の御金言】 一代の聖教は皆如来の金言、無量劫より已来不妄語の言なり。就中此の法華経は仏の正直捨方便と申して真実が中の真実なり。多宝証明を加へ、諸仏舌相を添へ給ふ。いかでかむなしかるべき。

【可延定業御書】（全集 985 頁）

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。（信心）
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。（行学）
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。（破邪顕正）
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。（示教利喜）
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991 年 2 月 13 日掲揚

☆ 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

勤行として読む御経がどういう意味なのか、むつかしくて分からない。

日蓮大聖人様の御書が何を言っているのか、むつかしくて分からない。高齢だから、聞いても聞いても、すぐ忘れてしまう、他人にも整理し勇氣を持って説明する事が出来ないから、説法を聞いてもしょうがないから、御寺に参詣しないという人がいます。

御経や御書がむつかしい。仏が生命をかけて体験し悟った事を説いているのですから、むつかしいのは当然です。それを私が、どれだけ噛み砕いて、現代の言葉に置き換えて、現代の私達の身の回りの事柄に置き換えて説明しても、仏が私達一切衆生に、何としても成仏してもらいたいと説かれた、私達自身の為の南無妙法蓮華経の法であると、聞くと同時に理解し、理解にとどまらず、実行して、その聞く、考える、理解する、実行する、という事が出来る人はほとんどいないのであります。宮沢賢治は青春時代、産まれて初めて法華経に出会って読んだ時に感激で涙を止める事が出来なかったと書かれています。私は法華経に書かれてある事は凄いなあ～と思いますが、涙が出た事は有りません。しかし、宮沢賢治は、身延日蓮宗系の釈尊本仏の教義を日蓮大聖人の仏法と考えて短い一生を送りました。私にも宮沢賢治ほどの感性があつたらなあ～と思いますが、凡夫の中の大凡夫のぼんくら頭では致し方ありません。じゃあ、こういうぼんくら凡夫はどうしたら良いのか。それは、忘れても、迷っても、さぼっても、努力する事を繰り返し繰り返ししているうちに、初めの内は分からなかった事、出来なかった事が分かり、出来る様になっていき、仏の私達に対する気持ち、目的が何か、ピンボケのおぼろげだったものがだんだんピントが合って、ハッキリと見え分かってくるのであります。

料理で言えば、初めは先生が付きっきりで、レシピに首っただけで、材料、手順、斬り方、分量、一つ一つ教えてもらいながら、同じものを何度も作っては食べ、作っては食べて貰

い、自分や家族の口に合う味に定まるまで、何十回も作っている内に、レシピを見なくても自然と手足が反応して動いて、他の料理にも応用しながら料理出来る様になっていきます。つまり、何度も何度も失敗して、試行錯誤しながら、自分の身体に溶け込んでいくのであります。

学校の勉強も、先生の話しを一回聞いただけで理解出来る子供はいません。何回も何回も同じ事を言われ、あいうえおかきくけこさしすせそたちつとや、漢字を何度も何度も、なんでこんな事を繰り返し繰り返しするんだろうと思うほど書いて書いて、頭の中で、あいうえおかきくけこさしすせそと、意識しなくても、反射的にスラスラと書けるようになったのであります。

仏法は、聞法、まず聞かなければ、何も始まりません。聞かなければ、どういう法で、なんで成仏出来るのかが分かりません。御寺に御参りしないで、家にいても分かりません。法事や葬式の世間的な形式が必要だから三寶院へ名前だけ所属して、信者の振りをしておこうという、信じていない人は信者ではありません。信者とは信ずる者という意味だからであります。

全ての生命に具わっている仏の生命を確認する為に、生命のあり方、生き方を正しい法によって正しく定める為に、私達は信心をしているのであります。御経、御書が分からないではなく、自分が分かろうと求めなければ、生きている間 100年 1000年待っていても、死んでからも分かりません。御経、御書には私達一切衆生の生命が説かれています。